

# いとう 五百亀 (1918~1992)



**彫刻家。**大正7(1918)年、新居郡大保木村(現、西条市)出身。17歳の時、雑誌に掲載されていた帝国美術院展覧会(現、日本美術展覧会)の彫刻を見て感動、彫刻家を志し、上京して多摩帝国美術学校(現、多摩美術大学)に入学、美術学校は中途退学するが、その後も吉田三郎に師事し、本格的な創作活動に入った。昭和17(1942)年、第5回文部省美術展覧会(通称「文展」)に出品した「立像」が入選、戦時色が濃くなる中、徴用令が五百亀の下にも来たが、そのような中、不眠不休で制作した青年像「鉄の戦士」が、翌年の文展で特選に入った。

終戦後、五百亀は故郷に落ち着き、彫刻を断念した。しかし、当時の大保木村の村長・伊藤一及び西条市長となる文野俊一郎らが後援会を組織し、五百亀を励ました。五百亀は再び上京、制作活動を再開、昭和29(1954)年、同30(1955)年の日本美術展覧会(通称「日展」)で連続特選を受ける見事な再起を果たした。その後、日展審査員、日展評議員を歴任、作家活動も円熟味を増し、昭和49(1974)年の日展出品作品「うたかたの譜」は文部大臣賞に輝いた。

五百亀の作品は数多く、京都三条大橋の高山彦九郎皇居望拝之像、福島県猪苗代湖畔の野口英世像は名高い。県内でも井上正夫像(松山市駅前)、子規座像(子規記念博物館)、十河信二像(西条市)、高畑誠一像(内子町)などの代表作がある。

## 略歴

大正7(1918)年5月11日	新居郡大保木村に生まれる。
昭和15(1940)年	多摩帝国美術学校中退、吉田三郎に師事
昭和17(1942)年	第5回文展に出品した「立像」が初入選
昭和18(1943)年	第6回文展に出品した「鉄の戦士」が特選受賞
昭和29(1954)年	第10回日展に出品した「潮先」が特選受賞
昭和30(1955)年	第11回日展に出品した「崖」が特選受賞
昭和31(1956)年	第12回日展審査員となる(以後6回)。
昭和33(1958)年	日展会員となる。
昭和36(1961)年	日本彫塑会会員となる。
昭和37(1962)年	社団法人日展評議員となる。
昭和49(1974)年	第6回日展に出品した「うたかたの譜」が文部大臣賞受賞
昭和53(1978)年	社団法人日本彫塑会(現、日本彫刻会)監事となる。
昭和57(1982)年	日本芸術院賞受賞(第13回日展出品作「渚」) 日本彫刻会理事となる。
昭和58(1983)年	日展理事となる。
平成3(1991)年	西条市功労賞受賞
平成4(1992)年3月4日	73歳で永眠

(写真提供：五百亀記念館)

### 〈関連図書〉

- ・『えひめ人 その風土』 愛媛放送株式会社 1986年
- ・朝日新聞社編『朝日人物事典』 朝日新聞社 1990年
- ・西条市教育委員会編『五百亀』 西条市教育委員会 2013年
- ・五百亀記念館編『彫刻家 伊藤五百亀 作品集』 五百亀記念館 2018年

〈ゆかりのある場所〉…(P294~295, 124~125)

〈関連施設〉…五百亀記念館

〒793-0023 愛媛県西条市明屋敷238-2 TEL: 0897-53-1008